

研究のあしあと

6月25日(水) 2校時 校内研究授業「未来へつなぐ地域の宝～ジオパークを通して、地域を見つける～」

6年生 授業者 川上由希子

今年度の研究授業が始まりました。1回目は、6年生の総合的な学習の時間でした。3年生からの学び、そして5月に見学で見たり専門家から聞いたりした話からジオパークから視点を広げ、自然や環境の大きなテーマをそれぞれで調べ学習してきました。本時では、そのジオパークの概要を知り、自分達との日常生活やくらしとのつながりを見つけるための「情報収集」「整理分析」の時間でした。

研究主題「生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造」

～活動や体験から生まれる思い・願いを深い学びへ～とのかかわり

これまで学習してきたことが「丹後の自然～海・水・土・気候～」と大きく関わっていることに気づくことをきっかけに、新たな視点で地域を見つめ直し、住んでいる自分たちの地域をどのようにしていきたいのかを考え、その思いを伝えたり、実践したりできるような活動を進め、小学校の総合的な学習の時間の集大成とする。 ⇒ **体験や活動により生まれた思いから作った課題を自分事の課題として捉え、考え・実践として表現する。**

これまで学習してきたことや様々な視点を関連付けて、地域の一人としての自己の生き方、地域の未来について考え続けられる児童を目指したい。 ⇒ **様々な見方や考え方を使い、自己の生き方、地域の未来について考えられる主体的な態度を育成する。**

研修で学んだ気付きの質を高める「みつける・ためす・くらべる・みとあす・たとえる・工夫する」も見方・考え方の視点になるのかな。

2年グループ研究では「深い学び」を

- ① **生活科(今まで)で学習した見方・考え方を生かして学習をしている。**
- ② **各教科の見方・考え方を使い、探究のプロセスを進めている。**
- ③ **自己の生き方へとつなげようとしている。**

と考えていました。これまでの見方や考え方を使うことで、より多面的で多角的な角度で学習でき、視点を広げていくこともできると考えていたようです。

事後研究会 6月25日(水) 司会 前田 記録 岡田

参観の視点①児童が主体的に活動するための手立てが有効であったか。

参観の視点②体験活動を通して、自分の思いを生き生きと表現できていたか。

成果・・・自ら学びに向かえる学習の積み上げ、学び方、

学習環境が整っていた。

・自分で立てためあてに向かい、自分の活動が始められていた。・スライドで他者参照できることや自由に人に聞ける環境であるため、困ったときに学びが止まらない。・学び方が分かっているから、先生の指示ですぐに動ける。自由な学習スタイルが確立されている。・教師もスライドで子どもたちの学習状況が分かる→有効な支援につながる



課題・・・児童への手立て・つながりへの支援

・他の子の考えを共有したり、全体で考えたりする場面を作り、「学び方」を他の子に聞く。学び方に迷った際に友達に聞くことでも、深い学びにつながる。・いろんな方法、いろんな視点があるからこそ、それを子どもたちに気付かせることが難しい。今までの学習・経験を思い出して、まわりまわってつながっているということを経験させていくことが大事。自分とのつながりを見つけるためにも「つながり方」を見つける方法を学んでいく必要がある。・学び方や「つながり」で悩んでいる子も。一度全体で止めて、他の子の考えを共有したり、全体で考えたりする場面があっても。→「学び方」を他の子に聞く。学び方に迷った際に友達に聞くことでも、深い学びにつながる。「ジオ」という対象が大きいだけにつながりに気付くことは難しい・・・

課題に対して、こんな意見も・・・

- ★全て子どもに委ねるのか、そうでないのかの判断する必要がある。できる力を持っている子が型にはまってしまふ可能性があるため、実態に応じて思考の流れが広がっていくように。
- ★「なぜ」、「どうして」がなかなか引っかけられない子への有効な手立て

授業を終えて 授業者より

「自分たちの生活との関わり」を考えることは、子どもたちにとって難しかったが、考えさせたい内容だった。この考える経験が今後「深い学び」につながると思っているからだ。しかし、子どもたちにとって難しいことだったので、「学びの手引き」にもっとヒントとなるようなことを書く、全体で一緒に考える、などの手立てが必要だった。これらは、児童の姿のイメージが不十分だった。実際に、「分からない」と言う児童といろいろなやりとり（対話）をすることで、「あ！そういうことか！」と気づく子が多くいた。すぐにわかる子にもわからない子にも、そして教師側にとっても、「対話」はとても重要であると考えている。対話によって、一人では気づけなかったことに気づけたり、さらに深められたりできることを価値づけ、総合の学習だけでなく他教科でも大切にしたい。一人で黙々とする子もいる。そういう子も友達と関わりながらできる手立ても必要だと思うが、その子にとってはその学習方法がよりよいものなのかもしれない。児童と話しながら、「協働することの良さ」も伝えていこうと思う。

今後、整理分析したものをまとめ、初めて「ジオパーク」に出会わせてくれた小長谷先生（元山陰海岸ジオパーク推進協議会専門委員）に発信する。その後、夏休みに個人でテーマを設定し、調べ、まとめる。「ジオパーク」から「自分たちの地域」へと見つけ、地域のためにできることを実践していきたいと思う。

今後の方向性について

- 自ら学びに向かえる学習経験の積み上げ、学び方、学習環境の整備
- 児童実態に応じた展開作り（できる力を持っている子が型にはまらないように）
- 個別への有効な手立て（時には一度活動を止める思い切りも必要）
- 整理分析（思考ツールも活用したまとめ方）の工夫や積み上げ

川上先生ありがとうございました！！2学期にむけて・・・

事後研で出た「つながり」は「協働学習による児童同士」や「整理分析を通じた学習対象と学習対象」、「自分と学習対象」とのつながりを指していました。特に自分との学習対象とのつながり、つまり自分ごとの学びになった時、もっとくわしく知りたい、関係することも調べたい、と探究的な学びへと深化していくのかもしれませんが。そのためにも、教師がつながりを作れる仕掛けがいるのでしょう。（その仕掛けはICTなのか、教師の声かけ・発問なのか、児童の書いたものなのかは学級、指導者によってそれぞれ）

今回のように自ら学びに向かえるための学習経験の積み上げ、学び方（思考ツールなどの整理分析も含め）、学習環境が整った学級は日々に指導、学級経営があってできることです。忙しい中参観させていただいた川上先生の学級経営や実践を、ぜひ自己の学級へ取り入れられることから取り入れ、日々積み上げながら、特別な支援がいる個への支援方法を模索していきたいですね。